

ユニット型特別養護老人ホームの職員による環境評価と空間に対する意識に関する研究 ～仙台市Tホームにおける調査（開設4年後4回目）から～

キーワード：ユニットケア、入居後施設評価法（POE）、
SD法、スタッフ、施設環境

石井研究室 岡田 里奈
齋藤 哲也

1. 研究の背景と目的

2002年度からユニットケア型の特別養護老人ホームが制度化され、介護施設が目指す方向として全室個室のユニット型が定着している。ユニット型とは「ユニットケア」を実践する施設で、自宅に近い環境において、入居者一人ひとりの個性や生活リズムに応じて暮らしていけるように個別ケアを基本とする介護手法と環境設備の形である。

本研究の目的は介護職員がユニット型施設の空間をどのようにとらえ、ケアの中でどのように活用し、また意識を持っているのかを、経時的な変化から探るものである。具体的には入居後施設評価法（POE評価）、施設空間の役割や意味、ケアと空間との関わりについて職員へのアンケート調査によって明らかにする。本稿では過去3回の調査結果に加えて今回の調査を含めた全4回の調査結果をもとに分析した結果を報告する。

2. 調査方法

仙台市にある2013年に開設した特別養護老人ホームTホーム(8ユニット・計80名)を対象に調査を実施した。調査は介護職員へのアンケート調査によるが、第1回調査2013年12月、第2回調査2014年5月、第3回調査2014年10月、そして今回の第4回調査を2017年10月に実施した。同様の調査を4回にわたって行い、個々の回答分析を行うなかで、その変化もとらえる。

3. 調査対象者

1回目のアンケート回答者は25人、2回目は30人、3回目は21人で、今回は25人である。今回を含めて過去4回全て回答したのは4人、今回を含めて過去3回回答したのは4人だった。本稿では全回答者を対象とした分析のほか、4回での比較考察、今回を含めて3～4回の回答があった者についての変化等の考察、ユニット勤務経験年数別、法人勤務年数別の分析に焦点をあてた。

4. 結果と考察

4.1 ケアの一要素として空間の役割の意識と評価

「ケアの一要素として空間が果たしている役割があるか」の設問の平均スコア(1:まったく感じない～4:とても感じるまでの4段階評価平均)は調査回数を重ねる度に下がっていく傾向に見られた。全体で見ると時間の経過によってスタッフの空間に対する意識が下がっていると判断できる(表1)。その一方で、今回の調査において法人勤務年数別で見ると、3年以上のスタッフで「とても感じる」と回答した割合が高く、経験を積むことで

表1 ケアの一要素として空間の役割(4回比較)

ケアの一要素として空間が果たしている役割があると感じている	1回目		2回目		3回目		4回目	
	N=	割合	N=	割合	N=	割合	N=	割合
1 まったく感じていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2 あまり感じていない	0	0.0%	2	6.7%	3	14.3%	3	12.5%
3 少し感じている	12	50.0%	13	43.3%	7	33.3%	9	37.5%
4 とても感じている	12	50.0%	15	50.0%	11	52.4%	12	50.0%
総計	24	100.0%	30	100.0%	21	100.0%	24	100.0%
平均スコア	3.50		3.43		3.38		3.38	

表2 ケアの一要素として空間の役割(勤務年数別比較)

ケアの一要素として空間が果たしている役割があると感じている	法人勤務年数				総計	割合
	3年未満 N=	割合	3年以上 N=	割合		
1 まったく感じない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2 あまり感じない	1	12.5%	1	7.1%	2	9.1%
3 少し感じる	5	62.5%	4	28.6%	9	40.9%
4 とても感じる	2	25.0%	9	64.3%	11	50.0%
総計	8	100.0%	14	100.0%	22	100.0%
平均スコア	3.13		3.57		3.41	

表3 他のユニットの設えへの意識(4回比較)

他のユニットの設えの様子が気になる	1回目		2回目		3回目		4回目	
	N=	割合	N=	割合	N=	割合	N=	割合
1 まったく気にならない	1	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2 あまり気にならない	3	12.0%	3	10.0%	1	4.8%	0	0.0%
3 少し気になる	11	44.0%	11	36.7%	9	42.9%	12	48.0%
4 とても気になる	10	40.0%	16	53.3%	11	52.4%	13	52.0%
総計	25	100.0%	30	100.0%	21	100.0%	25	100.0%
平均スコア	3.20		3.43		3.48		3.52	

表4 他のユニットの設えへの意識(勤務年数別比較)

他のユニットの設えの様子が気になる	法人勤務年数				総計	割合
	3年未満 N=	割合	3年以上 N=	割合		
1 まったく気にならない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2 あまり気にならない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3 少し気になる	6	75.0%	5	33.3%	11	47.8%
4 とても気になる	2	25.0%	10	66.7%	12	52.2%
総計	8	100.0%	15	100.0%	23	100.0%
平均スコア	3.25		3.67		3.52	

ケアの一要素として空間が重要だと認識している職員が多くなっていることも分かった(表2)。

4.2 他のユニットへの意識と評価

「他のユニットの設えの様子が気になるか」の設問の平均スコアは調査を重ねるにつれて上昇し、気になると考える職員が多くなっている(表3)。また、今回の調査において法人勤務年数別で見ると、3年以上の職員の方が「とても気になる」の割合が高い(表4)。時間の経過や勤務年数が長くなることで他のユニットを意識する余裕が生まれ、自分のユニットとの違いが見えてきたことによると考えられる。

4.3 継続的な視点からの分析

3回もしくは4回の回答があった者の回答の状況を時系列で分析した(表5)。「家具配置の重要性」(設問1)では概ね変化なく、継続的に重要性の認識が高い。「空間のつくり方の影響」(設問2)や「居場所づくりへの注力」(設問3)では今回評価が下がっている。「慣れ」により利用者の居場所づくりへの関心が薄くなってきているとも言える。「空間が大きな意味を持っているとの認識」(設問4)や「ケアの一要素としての空間の役割」(設問5)も評価が逡減している。これも、開設当初は豊かで特徴的だと思っていた環境が日常のものとなり、大きく意識しなくなってきた結果ととらえられる。「他のユニットへの意識」(設問6)は徐々に高まっており、周りを見る余裕と関心の高まりが窺える。「身体的な疲労度」(設問7)と「精神的な疲労度」(設問8)は、いずれも徐々に疲労度が高まっている。

4.4 ユニット内の共用空間における感覚評価

ユニット内の共用空間の印象を対となる形容詞によるイメージ評価(SD法、5段階評価)で求めた。4回の調査結果を見ると、特に今回は「日常的な」「にぎやかな」「派手な」「広い」「親しみのある」「豊かな」「楽しい」「くつろぎ感がある」「生活感がある」「懐かしい」「家庭的な雰囲気」「住宅的」などの印象が高まっている(図1)。

一方、今回の回答者を「ユニット勤務年数が初めて・1年未満」と「ユニット勤務年数が1年以上」で分けて分析すると、「派手な-地味な」「楽しい-つまらない」「広い-狭い」などの評価が分かれた。勤務年数が短いほど施設環境をプラスに評価し、勤務年数が長いほど家庭的で住宅的な雰囲気と評価する傾向がある。

5. まとめ

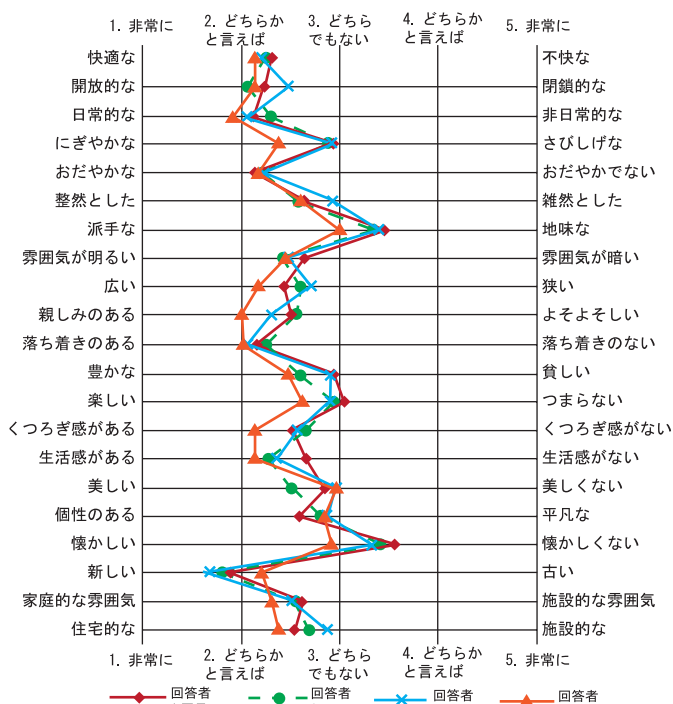


図1 ユニット内共用空間の評価(4回比較)

施設の空間や環境に対する評価は時間の経過や勤務経験が影響していることが明らかになった。時間の経過とともに施設空間や環境に対して意識が低くなる傾向も確認できた。空間に対して意識を向けることがよりよいケアに繋がることを考えると、常に意識を向け、高める努力も施設運営の中では重要になる。一方で、他のユニットを意識することは高まっている。徐々に外を見て自分たちの空間を客観視することができるようになっているとも言える。開設から4年を経過すると、職員の入れ替わりも多くある。いかに継続的に施設空間や環境に対する意識を持ってケアにあたることができるか、組織としての取り組み方法を考えていくことも重要である。

表5 各設問に対する評価の変化(3~4回回答者)

設問	1回目 N=7	2回目 N=8	3回目 N=5	4回目 N=8
1 ユニット内の家具の配置はケアにおいて重要だと感じる	3.7	3.9	4.0	3.9
2 個別ケアの実践には空間のつくり方、あり方が影響すると実感として感じる	3.9	3.9	4.0	3.6
3 利用者一人一人のその人にとっての居場所探し(づくり)に力を入れている	3.4	3.5	3.6	3.1
4 建物の空間のあり方が「大きな意味を持っている」と感じたケースがあるか	3.1	3.6	3.0	2.3
5 ケアの一要素として空間が果たしている役割があると感じている	3.6	3.8	3.8	3.4
6 他のユニットの設えの様子が気になる	3.0	3.5	3.6	3.9
7 身体的な疲労度の程度	2.4	2.6	1.8	1.9
8 精神的な疲労度	2.3	2.1	1.8	1.8

各設問のスコア(いずれも4段階)

1	1:まったく感じない~4:とても感じる(スコアが高い方が「感じる」)
2	1:まったく感じない~4:とても感じる(スコアが高い方が「感じる」)
3	1:まったくくしていない~4:かなり入っている(スコアが高い方が「入れている」)
4	1:まったくない~4:とてもある(スコアが高い方が「ある」)
5	1:まったく感じない~4:とても感じる(スコアが高い方が「感じる」)
6	1:まったく気にならない~4:とても気になる(スコアが高い方が「気になる」)
7	1:かなりきつい~4:まったくきつくない(スコアが低い方が「きつい」)
8	1:かなりきつい~4:まったくきつくない(スコアが低い方が「きつい」)

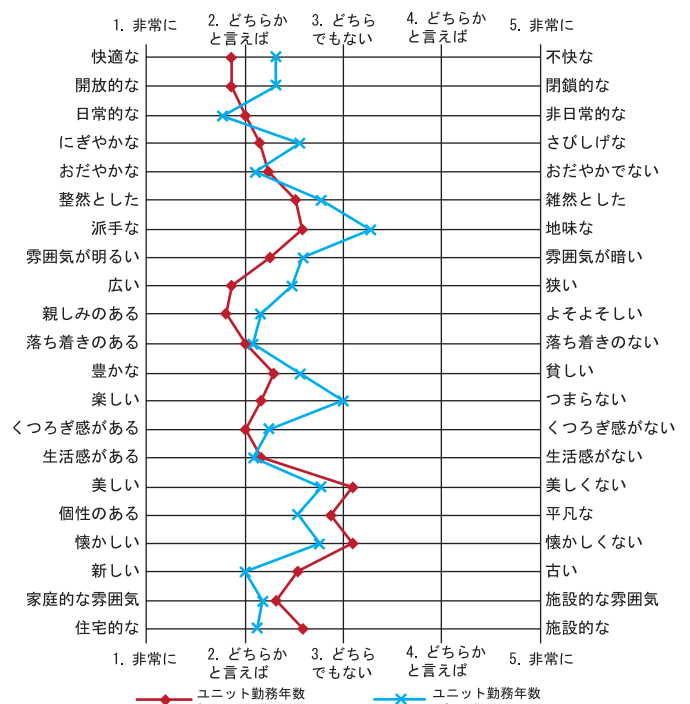


図2 ユニット内共用空間の評価(4回目ユニット勤務年数別比較)